

会議録

会議の名称	平成25年度 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成25年12月12日（木曜日）午後7時から9時まで
開催場所	保谷庁舎1階会議室
出席者	委員：赤澤委員長、有賀副委員長、岸上委員、近辻委員、中平委員、西田委員、山崎委員、山本委員 事務局：南里文化振興課長、林文化振興係長、工藤文化振興係主査
議題	1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について 2 平成25年度西東京市文化芸術振興計画「施策 事業評価（平成24年度分）」の結果報告について 3 計画前期の取組実施報告について 4 その他
会議資料の名称	1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録 2 平成25年度西東京市文化芸術振興計画「施策 事業評価（平成24年度分）」の結果報告について 3 計画前期の取組実施報告について <参考資料> 平成25年度どんど焼（チラシ） シネマホットライン（写し） ウインズパストラレ第4回定期演奏会（チラシ） 西東京ジュニアオーケストラ第6回定期演奏会（チラシ） Kidsミュージカルファクトリー15周年記念SpecialMusicalLIVE（チラシ） 西東京フィルハーモニーオーケストラ創立15周年記念特別演奏会（チラシ） 保谷高校OB吹奏楽団第22回定期演奏会（チラシ）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>○委員長： 定足数と出席している委員を確認</p> <p>（配付資料について）</p> <p>○事務局： 参考資料として、市及び市民団体主催の文化芸術イベントのチラシを配付させていただいた。</p> <p>来年1月25日（土曜日）開催のこもれびホール市民名画座では、山本委員のご尽力により、西東京シネマ倶楽部制作の市民文化祭の記録を5分間上映していただくことになったので、是非足を運んでいただきたい。</p>	

議題1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について

事務局：

1か所修正報告後、委員各位より承認された。

○委員：

会議録の中にある、西東京TVとは何か？

○委員：

今年4月から始まった、西東京シネマ倶楽部が動画を無料で配信するインターネットTV。現在、月1,000件位のアクセスあり。目標は月5,000件のアクセス。いずれコンテンツが売ればと考えている。

市民文化祭の記録は、12時間ぐらい撮影して9分間に編集した。こもればホール市民名画座には、450人ぐらいの観客を見込んでいる。大画面で見るとよさを実感してほしい。

議題2 平成25年度西東京市文化芸術振興計画「施策 事業評価（平成24年度分）」の結果報告について

課長：

「施策 事業評価」に当たって、推進委員会評価コメントを作成していただいたことに対するお礼。

○事務局：

資料2に基づき説明。

○事務局：

「施策 事業評価」の結果については、推進委員の皆さんに内容を最終的に確認していただき、11月27日に市長への報告を起案し、11月28日には全課に対して通知した。推進委員会及び庁内検討委員会の評価コメントは問題提起と捉えてもらい、次年度以降の事業を推進する上での参考としてもらうこととした。

なお、この「施策 事業評価」は毎年度実施する予定である。

「施策 事業評価」の様式については、試行錯誤を繰り返しながらスタイルの確立に努めたが、来年度に向けて再考したいと考えているので、委員の皆様からのご意見等がありましたら参考にしたい。

○委員：

「施策 事業評価」は、事業の重要度が見えてこなかったのが残念であった。

議題3 計画前期の取組実施報告について

○事務局：

資料3に基づき説明

（「対話による美術鑑賞」事業について）

○事務局：

ボランティア養成研修の内容を簡単に説明。

VTS体験のVTSとは、知識に頼らずに、作品をよく見ることからはじめ、「これは何だろう」と一人一人に考えることを促し、様々な意見を引き出しながら、作品の見方を深めていく鑑賞方法。

講義の「3つの質問」と「7つの要素」について説明。

「3つの質問」とは、

- 1 「この作品の中で何が起きているのでしょうか」 開かれた質問、解釈を促す。
- 2 「作品のどこからそう思ったの」 根拠を求める、観察を促す。
- 3 「他にもっと発見はありますか」 更なる発見と観察を促す。

「7つの要素」とは、

1. 一人一人がじっくり作品を鑑賞する時間を設ける。
2. よく聴いて、どんな意見も受け入れるオープンな気持ちを持つ。
3. 指で指し示す。
4. パラフレーズ（鑑賞者の全ての意見を、別の言葉で言い換え、「あなたの言ったことを、私はこう理解しました」と伝える。発言の真意を抽出し、言い換えること。）
5. リンキング（これまでの意見と関連させる。）
6. 中立性を保つ（VTSは一つの「正解」ではなく「思考する」ことを学ぶプロセスを重視している。どんな意見も否定しない。過度に肯定しない。パラフレーズするとき、断定せずに一つの可能性として扱うことで、あらゆる可能性を検討することの重要性を指し示す。）
7. まとめない結び（まとめたり、要約したりしない。「実はこの作品の作者は～」といった、答え合わせのようなこともしなくてよい。）

アートカードゲームとは、3枚のカードから2枚を選び、共通点を見つける「神経衰弱！ゲーム」や、3枚のカードを組み合わせて物語を作る「ものがたり作りゲーム」のことをいう。

ミニVTS体験とは、A4サイズの作品画像を使って、少人数の環境で作品について自由に語るVTS体験である。

講義の「美的発達段階」とは、認知心理学者アビゲイル ハウゼンが6,000件ものインタビュー調査を行い、大人も子供も美術をどのように鑑賞し、それが経験によってどう変化していくかをまとめたもの。

1月15日（水曜日）には、小学校の図工部会の先生に対して、「対話による美術鑑賞」を実施。2月か3月には、推進委員の皆さんに対しても実施したいと考えている。

1月21日（火曜日）には、「対話による美術鑑賞」実施に向けた調整会議で、モデル校及び対象学年の選定等について調整予定。

○委員：

「対話による美術鑑賞」実施に向けた調整会議の内容に、「平成26年度予算要求概要」とあるが、どのくらいの額を要求しているのか。

○事務局：

今予算編成中なので、具体的な数字を示すことはできない。

○委員：

以前、新宿の美術館に小学生の「対話による美術鑑賞」を見学に行って、どのような

効果があるのかと思ったが、美術の世界で表現と鑑賞は表裏一体であるので、小学生が「対話による美術鑑賞」で学んだことをどう学校教育に生かすか、還元するかが大切であると思う。

(市民映画祭について)

○事務局：

素人から見ても、自主制作映画コンペティション作品のレベルの高さを感じ、最終作品に選ばれた井上監督の「のぶ子の日記」は完成度が高く、主演女優の演技もすばらしかった。

○委員：

市民審査員の応募が30人しかなかったが、昨年と同様に多くの観客が入った。地元から半分で残りの半分は地元以外である。まだ、地元の客が少ないのが残念である。

今年度はこもればホールの方々に全面的にお世話になった。DVD上映であるが、映像も映写機に負けずにきれいで、タイミング、音声、ピントも合っておりとてもよかった。表彰式がとても上手く進行したのも裏方の皆さんのおかげである。

西東京シネマ倶楽部としては、映画を観る側から、制作する側へもシフトしていく予定である。

○委員：

タウン通信で、エクラアニマルが市民と映画制作をしている記事を見たが、これと同じようなことをするのかと思う。

○委員：

こもればホールは、市民映画祭を共催しているが、部屋を貸しているというだけではなく、一緒に取り組んでいるという認識を持つようにしている。

今回、市民映画祭の審査員をさせていただいたが、期待以上に作品の内容が面白く、自分が投票した作品も選ばれ、一緒に参加していることが実感できてとてもうれしかった。

(市民文化祭について)

○事務局：

市民文化祭は、気軽に日本の伝統文化を体験できるので、外国人にとっても喜ばれるイベントであると感じ、今後、より多くの外国人が体験や参加することができる仕組みをつくれたらと思った。

参加者が参加する楽しみを存分に味わえるイベントである。

今回、西東京TVのカメラ、取材が入ることで、演者のモチベーションがアップしたと思った。

市ホームページには、PR inアスタの動画がUPしており、また、西東京TV「第13回西東京市民文化祭」(YouTube動画)とリンクもしている。

○委員：

市民文化祭は、今までは展示と発表が中心であったが、最近は、演劇や動画作品の参

加があったり、若い人たちを取り込むために、中学生の作品を展示したりと新しい内容になっているので、是非観ていただいて感想をいただきたいと思っている。

今回、参加者に一番反響があったのは、西東京TVのインタビューであり、生き生きとした発表へとつながった。

参加者は、幼稚園から高齢者福祉施設入居者までと幅広く、秋の市民文化祭での発表を目標に、1年間を通して練習をしている。

今回、オープニングイベントは舞台演出をプロに委託し、舞台演出の指導や勉強会が始まっている。

運営側も、11月には反省会を行ったり、今後の企画内容について検討したりと、1年間を通じた活動を行っている。

○委員：

若い人のアイデアを取り入れるために、市民への参加募集などは考えているのか

○委員：

市制10周年では、市民に対して参加募集を行い、50人位の参加があった。
現在は、保谷高校の器楽への参加や中学生の美術作品の展示などがある。

○委員：

運営母体に若い人を入れる案はあるのか

○委員：

運営委員は各団体からの代表で構成されており、メンバーは固定ではなく、入れ替わっているため、その中には若い人もいます。

○委員：

市民文化祭に取材に行つての感想だが、こもれびホールや市民会館には、多くのお客様が入っていたが、展示には少なかった。内容はとてもいいので、もっと多くの人に見てもらうために工夫が必要である。

○委員：

展示には、動画作品の参加があったりと厚みを持った文化に触れることができたと思うが、お客様が少ないというのは痛感しているため、集客にいい方法がないかアイデアをいただきたい。

○委員：

参加者のレベルとか質の高さをいうより、どれだけ文化を楽しんでいるかが大切であり、参加することに意義があると思う。大いなるマンネリもいいのでは。続けることは、いいものが生まれる可能性を秘めている。

過去に市民映画祭を主催していて辛い思いをしたことがある。市民はカンヌやヴェネチア映画祭は知っていても市民映画祭は知らない。しかし、カンヌやヴェネチアには行ったことがない。映画祭も参加することに意義があり、地元開催の市民映画祭は参加することができる。

(東伏見芸術祭について)

○事務局：

早稲田大学社会連携推進室主催のイベントで、まだ3年目ということもあり、来場者が少ないので、来年度は、市も早稲田大学と連携しながらこの芸術祭を盛り上げていけたらと思っている。人を集める手段として、フリーマーケットを同時に開催したり、ストリートパフォーマンスを行ったりするなどして、外の空きスペースを活用できればと思った。

(圏域美術家展について)

○事務局：

多摩北部都市広域行政圏協議会主催の事業であり、開催市は持ち回りで、今年度は東久留米市で開催したが、来年度は西東京市で開催する。西東京市では、「対話による美術鑑賞」事業もスタートしたので、何らかのコラボをしたいと考えている。

○委員：

11月30日(土曜日)のギャラリートークに行ってきたが、5分間程度で終わってしまい期待外れであった。地元のアーティストとの協働は大切であると思った。

議題4 その他

○事務局：

今後の文化芸術行事の予定は、どんど焼が来年1月11日(土曜日)に保谷第二小学校、明保中学校で、1月19日(日曜日)に上向台小学校で開催。1月25日(土曜日)第171回こもれびホール市民名画座で11時の回に「煌く市民文化 2013西東京市民文化祭の記録」を5分間上映。

次回、第5回推進委員会については1月に開催予定であったが、2月か3月に開催し、同時に「対話による美術鑑賞」体験勉強会ができればと思っている。日程については、講師の都合もあるので、事務局で調整してから委員の皆さんに連絡したい。

次回が今年度の最後の開催とし、来年度は委員の任期が7月31日までということもあるので、平成26年度の第1回の開催は今年度と同じく8月を予定している。

○委員長：

今年度は、市民文化祭、市民映画祭などのイベント内容が濃く充実しており、また、「対話による美術鑑賞」事業もスタートしたこともあり、文化芸術振興計画が順調に推進された。次年度も引き続きよろしくお願ひしたい。

閉会